

令和5年12月4日
(2023年)

保護者の皆さまへ

吹田市立千里丘中学校
校長 吉川 正晃

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語《概要》

全体の平均正答率は全国値を上回っている。これまでの学習の成果が表れている。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

正答率は全国値を上回っている。苦戦した設問もあったようなので、今後、授業等での発表時に考えた過程と合わせて意見を言えるように指導していく。

【情報の扱い方に関する事項】

正答率は全国値を上回っている。全国的に見ても解答しにくい設問であったようだが、工夫して答えている様子が見える。

【我が国の言語文化に関する事項】

正答率は全国値を上回っている。全国的に見ても解答しにくい設問であったようだが、工夫して答えている様子が見える。

【話すこと・聞くこと】

正答率は全国値を上回っている。スピーチに不慣れな様子も見られるので、授業での活動に取り入れていくことを検討したい。

【書くこと】

正答率は全国値を上回っている。正解、不正解を含め、多くの生徒が自らの考えを書くことができています。

【読むこと】

正答率は全国値を上回っている。大半の生徒が登場人物の心理を丁寧に追うことができています。

◇国語における成果と今後の改善点について

全体として、これまでの学習の成果が表れた結果となっている。特に、漢字の書き取りや、語句の意味を答える問題については正答率が高く、語彙力が培われてきた結果として捉えることができる。

スピーチや発表時に、考えを整理し、わかりやすい言葉を使って伝えることに課題が見えるので、授業やその他の活動時に練習を繰り返していきたい。

●数学《概要》

平均正答率は全国値を上回っており、学習の成果が見られる。

【数と式】

どの問題についても全国値を上回っているが、「自然数の意味を理解できる」の問題が正答率が低い。

【図形】

どの問題についても全国値を上回っているが、「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解できる」の問題は正答率が低い。

【関数】

どの問題についても全国値を上回っているが、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」の問題の無解答率が高い。

【データの活用】

全体的には全国値を上回っているが、「累積度数の意味を理解できている」の問題だけ全国値を下回った。

◇数学における成果と今後の改善点について

全体的には全国値を上回る結果となったが、上の概要にも述べた無回答率の高かった問題や全国値を下回る問題もあった。証明や説明する問題、データの活用の問題の基礎や応用問題の練習不足である。

この結果を踏まえて、復習や応用問題など取り組んでいきたい。

●英語

【『聞くこと』に関する問題】

《概要》

本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果だった。しかし、中には正答率が低い設問もある。

文章の内容を正確に聞き取る問題の正答率が高い。しかし、目的や状況を判断しながら、必要な情報を聞き取る問題は府や全国の平均正答率はやや上回るものの正答率がやや低くなる。

【『読むこと』に関する問題】

《概要》

本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果だった。しかし、中には正答率が低い設問もある。

文章の内容を正確に読み取る問題は府や全国の平均を上回っている。しかし、日常的な話題についての文章の概要を捉える問題は府や全国の平均正答率はやや上回るものの正答率がやや低くなる。

【『書くこと』に関する問題】

《概要》

本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果だった。しかし、中には正答率が低い設問もある。

与えられた条件や英語を用いて英文を書くような問題は府や全国の平均を上回っている。しかし、自分の考えや理由を書く問題は府や全国の平均正答率はやや上回るものの正答率がやや低くなる。また、書く内容を整理してまとまりのある英文を書く設問は、特に正答率が低かった。

【英語（話すこと）に関する問題】

《概要》

本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果だった。

◇英語における成果と今後の改善点について

基礎的な問題や知識に関する問題は、多くの生徒が理解をしているが、応用的な問題で一部正答率がやや低い設問もある。また、自分で書く内容を考えてまとめて英文を書くことに課題があると感じる。質問に対して答えた後に自分の意見を付け加えさせる、まとまりのある英文を書いたり読んだ後に、自分の意見や感想を書く活動などを、授業内で取り入れるなど工夫を検討している。授業内で、ペア活動を積極的に取り入れて、生徒が英語を話す時間をなるべく多く確保しているが、その時間の中で自分の意見を話す場面設定をしたり、生徒が自分でまとめた英語を話す機会を設けるなどしていく必要がある。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

○肯定的回答 ×否定的回答

()内の↑↓→は昨年の本校との比較 ーは昨年にはない質問

☆良好な結果（全国の結果よりも肯定的な回答率が上回っているもの）

★課題あり（全国の結果よりも肯定的な回答率が下回っているもの）

※全国の結果との差がほとんど見られないものは記載していません。

(1) 自分自身のことについて

- | | |
|--------------------------|---------------|
| ☆「学校に行くのは楽しい」 | ○ 87% (→) |
| ☆「自分にはよいところがある」 | ○ 84% (↑ 2P) |
| ☆「将来の夢や目標を持っていますか」 | ○ 78% (↑ 15P) |
| ☆「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 | ○ 96% (↑ 4P) |
| ☆「人が困っているときは、進んで助けていますか」 | ○ 90% (↑ 1P) |

全国と比べても、全体的に肯定的な回答が多く、自己肯定感が高い生徒が多い学校であるという結果となりました。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」や「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問ではともに肯定的な回答率がとても高く、他者への関わりを大切に感じていることがわかります。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と考える生徒がほとんどであり、近年吹田市で継続的に実施しているいじめ予防授業の成果を感じ取れます。

(2) 家庭生活について

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ☆「毎日同じ時刻に寝ている」 | ○ 79% (↓ 3P) |
| ★「毎日同じ時刻に起きている」 | ○ 87% (↓ 5P) |
| ☆「朝食を毎日食べている」 | ○ 91% (→) |
| ★「家で自分から計画的に勉強する」 | ○ 53% (↓ 3P) |
| ☆「普段1日当たりの勉強時間」 | ○ 2時間以上 55% (↑ 11P) |
| | 全国 (34%) 大阪 (39%) |

概ね規則正しい生活を送っています。「毎日同じ時刻に起きている」という質問では、肯定的な回答率が全国の結果を下回っており、起床時間のばらつきに課題が見られます。一方、勉強時間については全国の結果と比べても、大幅に上回っており、勉強に対する意識が高いことがわかります。「家で自分から計画的に勉強する」では肯定的な回答率が全国の結果を下回っておりますが、これは家庭外（塾など）で勉強に取り組んでいる生徒が多いことも要因の1つとして考えられます。今後も引き続き、考査前のテスト計画表を活用するなどして、自主的に計画を立てて、学習に意欲的に取り組む姿勢を培っていきます。

(3) 地域・社会等について

- ★「地域や社会をよくするために何かしたいと考えますか」 ○56% (→) 全国64%
- ★「今住んでいる地域の行事に参加していますか」 ○29% (↑5P) 全国38%
- ☆「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか」 ○69% (-) 全国67%
- ★「日本やあなたの住んでいる地域のことについて外国の人にもっと知ってもらいたいと思いませんか」 ○59% (-) 全国63%

「地域行事への参加」については全国の結果と比べると下回っているものの、昨年度の本校の結果と比べると上昇しています。これはコロナウイルスの流行が少しずつおさまってきたことで地域行事が活発になってきたことも要因の1つとして考えられます。今後、地域とのかかわりの場が増えることで、地域に貢献したいという思いが高まることを期待しています。

また、「外国のことを知りたい」という質問では肯定的な回答率が全国の結果を上回っている一方で「外国の人に知ってほしい」という質問では下回っています。今後は外国への興味関心を高めるとともに、日本や地域のことを知り、それを発信したいと思えるような活動が必要であると考えます。

(4) 学級活動について

- ☆「学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」 ○83% (→)
- ☆「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」 ○80% (↑3P)
- ☆「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」 ○72% (↓2P)

「学級活動」についてはどの質問においても、肯定的な回答率が全国の結果を上回っていました。これは特別活動や総合的な学習の時間、行事への取り組みなどで積極的に班活動やグループ活動に取り組んでいる成果だと考えております。今後も自身の考えを深めたり、他者の意見を尊重したりできるようにこのような活動を続けていきます。

(5) 調査教科について (肯定的な回答 単位%)

	好き	大切	よくわかる	社会で役立つ
国語	44	87	79	84
数学	52	81	83	72
英語	55	90	80	88

どの教科においても「よくわかる」の肯定的な回答率が全国の結果を上回っていました。一方、国語と数学においては「好き」「大切」「社会で役に立つ」の肯定的な回答率が全国の結果を下回っていました。引き続き、「わかった」という達成感が持てる授業づくりに励むとともに社会や生活とのつながりを感じさせたり、教科の楽しさが実感できたりするように指導方法を改善していきます。